

ボツワナ共和国に対する総務省の取組

【地デジ】

- 2013年7月、首都ハボロネで地デジ放送が開始。2015年10月、地デジ送信機も全国的な設置が完了。
デジタル移行の完了に向けたアナログ放送の停波が今後の課題であるところ、2017年10月、中西部の都市ハンジで初のアナログ停波(ASO: アナログスイッチオフ)を実施。2018年3月には、北部の都市マウンでも実施。
- 今後、より大きな都市、全国でのASO実施に向けては、ASO目標(※)達成のための受信機(STB: セットトップボックス)普及方策や、デジタル放送・アナログ停波についての周知広報が課題。
これまで、受信機価格の高止まり要因である関税等の免除をボツワナ政府に数次にわたり働きかけてきた。
※ ボツワナでは、地上アナログ放送視聴世帯の65%以上への受信機の普及を目標としている。
- 総務省では、STBの市場流通等、円滑な地デジ移行に向けた協議(※)を引き続き行うとともに、ボツワナ全国へのSTB普及のための流通体制や販売促進方策等の調査を実施。
※ 全国ASOに向けた計画策定、周知広報活動、STB輸入に対する税制面の取扱い等を協議予定。
- その際、日本企業からSTBの調達を予定している現地企業等と連携し、これらの調査を円滑に行う予定。



【参考】ボツワナの送信局位置等

【農業】

- ボツワナにおける食料自給率の向上に貢献するとともに、日本の情報通信技術(ICT)を活用した乾燥地における農業のモデルケースとするため、農作物の栽培やその管理等を簡易かつ低コストで実現するために必要な施策を検討中。